



わたしの郷土 わたしのかき水町

菊水町立菊水南小学校 五年 横田まや

わたしの住んでいる菊水町は、菊池川のほとりにある町で、史せきの多い町です。縄文時代の若宮貝塚や、国指定特別史せきの江田船山古ふん、石室にかんのん様がきざまれた穴がんのん古ふんからは、大正時代に金どうせいのかんむりや、文字をきざんだ刀が見つかり、国ほうとして東京の国立はく物かんに大切に保存されていきます。また、江田船山古ふんのある台地は、史せきあと公園としてりっぱにせいびされ、なかにある「民家村」には、各地から昔の民家を持って来てあります。この台地の東はしになぞのいせきとして有名な「トンカラリン」があり、石で作ったトンネルは、まがつたり、おれたり、せまくなったりして、なん百メートルも続きます。いつごろのたちが作ったのでしょうか。

毎年、八月一日には、町をあげて「古ふん祭り」をします。夜店、花火大会、イカダ下り競争などがありますが、最大の見物は、「たいまつ行れつ」です。夜になると、古ふん時代のふくそうをした大人、小中学生が手に手についたたいまつをもち行れつをします。暗やみに光るたいまつがゆらゆらゆれて明るく暗く、古ふん戦士のよこ顔をてらし、一しゅん一五〇〇年前の世界にさそわれます。この夜には、よその町からたくさん見物人がやって来て、たいへんこんざつします。

私は、こんなにたくさんさんの歴史をもち、昔の人たちのようすをおしえてくれる菊水町が大好きです。



横田まやさん